Page2：序論

本サイトで議論する「SNS」とは、人間に対して社会的にどのような立ち位置にあるのか？といった、サイトを見る上で前提となる部分を掘り下げていく。同時に本サイトの大きなテーマである「SNSがもたらした様々な課題」の導線になるような構成にする。

（本文）

**1.Social Networking Service**

いつでも、どこでも、スマホを開けば社会に繋がれるような時代。Ｘで社会の動向を追いかけ、Instagramで友達と連絡をとったり、Facebookでかつての友達と再会したり。もはや日常生活の一部として、SNSは存在を確立していきました。<br>

SNSが我々にもたらした恩恵は計り知れません。<br>

遠く離れた家族や友人と瞬時につながり、趣味や興味を共有するコミュニティを見つけ、自分の考えや作品を自由に発信できるようになりました。SNSは、私たちの世界を広げ、多くの可能性を与えてくれました。<br>

ＳＮＳの問題の本質に迫るため、まずはSNSが現代においてどのような立ち位置に在るのかを再確認していきましょう。<br>

**①文化とSNS**

SNS、ソーシャルネットワーキングサービスとも呼ばれるそれは情報通信技術の発展によって登場したインターネット上のコミュニケーションツールの一つです。<br>

日本語に直すと「ソーシャル（社会的な）ネットワーキング（繋がり）を提供するサービス」であり、いついかなる時でもSNSを通じて「つながりっぱなし」になることができます。<br>  
「つながりっぱなし(connected)」という文言は社会学者ダナ・ボイド氏の著書でも触れられており、ボイド氏曰くもはや若者とＳＮＳは単なるツールという枠組みを大きく超えた、現代社会の文化形成の根幹を支配する場そのものであると示唆しました。<br>

**②感染していくミームという文化**

一例として、ＳＮＳで形成される文化に「ミーム」というものがあります。ミームとは、特定の画像、動画、フレーズなどが模倣・加工・再構築されていくことによってインターネット上で爆発的に広まる現象の事、またはその対象物を指します。<br>

ミームの流行り廃り、そしてミームが誕生する瞬間などは時の流れに沿って常に動き続けます。ミーム最大の特徴とも言える、「誰もがミームの担い手となっていく」というものです。<br>

例えば、ある画像がSNSに投稿され急速に広まりを見せるとします。

そうするとその画像を見た人の中に、元の画像にアレンジを加えてSNSへと画像をアップする人が現れます。そしてその画像を見た人がまた…<br>

このように、ミームは一度爆発すると留まることを知らず、もはや発信者と受信者という境界線を曖昧にしてしまうほどになることで、誰もがその文化を形成していく一人者へとなっていくのです。<br>

これらの文化を「ボトムアップ」と呼ぶこともあり、かつて文化が一過性のコンテンツに限られ、TV局や出版社といった特定の機関から流行が伝播していく「トップダウン」とは全く新しい文化へとなっていったことがわかります。<br>

さて、この「ミーム」はあくまでSNS上で誕生した文化の一例にすぎません。<br>

しかしその一例であっても社会現象を巻き起こしうる扇動力、拡散力があるのは十二分に知って頂けたかと思います。<br>  
ではそんな、文化形成の場としての一面を持つSNSにも、また別の一面があります。<br>

ツールという側面を飛び出したSNSは、人々に「居場所」を与えるようになっていったのです。<br>

**③サードプレイス：SNS**

SNSは相互が人間によって形成されていくネットワークであり、人間同士が複雑に絡み合う中で、ある共通点を持った人同士がコミュニティを形成したり、その中で小さな組織が出来て行ったり、ＳＮＳはただ単なる情報伝達という役割にとどまらず、ＳＮＳを形成する人間に「役割と居場所」を与えていきます。<br>

それまで人間の組織においてファーストプレイスと言われる「家庭」、セカンドプレイスと言われる「職場や学校」が、人間と人間を繋げるコミュニティ形成の場として一般的でした。しかし、どこでもいつでも、時には言語も国境も越えてコミュニケーションが取れるＳＮＳという存在が世に広まってからは、現実では成しえない「不特定多数の人間」のネットワークの形成が容易になっていくのです。<br>

ＳＮＳのネットワークは現実のネットワークと大きく異なる一面を持っています。<br>

それは「出会い」が容易であるという事です。<br>

現実のコミュニティでは、時に自分に関心のない事であったり、相手を気遣った立ち振る舞いを重要視しなければいけません。それはコミュニティを形成していく上で必要不可欠な「遠慮」であり、その配慮があってこそ穏便なコミュニティが形成されていきます。<br>

ＳＮＳのコミュニティ形成は非常にシンプルで、そして自由です。<br>

都市社会学者レイ・オルデンバーグ氏によると、サードプレイスの重要な特徴の一つは、そこで築かれる人間関係が、家庭や職場のような役割や責任に縛られない、自由で対等なものであることです。<br>

ＳＮＳで自分の興味のある分野の人々とコミュニティを形成する事は多々ありますが、現実のように相手の考えが不透明であることは非常に少ないです。<br>

何故なら人間はＳＮＳという場においてより自由に自己を表現するため、似た者同士かどうかが一目で判別可能であるためです。<br>

また、社会学者マーク・グラノヴェッターが提唱した「弱い紐帯（弱い結びつき）」という概念も、SNSを理解する上で重要です。これは、親友のような強い結びつきではなく、知り合い程度のゆるやかな人間関係のことです。<br>

オルデンバーグは、サードプレイスが、この「弱い紐帯」を育む場であると指摘しました。SNSも同様に、直接は会ったことのないフォロワーや、コメント欄でたまに交流するだけの人々との間で、ゆるやかなつながりを保つことができます。この「弱い紐帯」は、時に仕事の情報や新しい機会をもたらすなど、強い結びつきからは得られないメリットを生み出すことがあります。<br>

このように、現実の枠を超えたコミュニティ「サードプレイスとしてのＳＮＳ」は、現実よりも自由、そしてストレスフリーに居心地の良い場所を利用者に与えるのです。<br>

**2.SNSの課題点**

現代での新たな立ち位置を確立しつつあるＳＮＳ。<br>

しかしその一方で、私達は何かを失ってはいなかったでしょうか？<br>

いつでも、誰とでも繋がれる便利さの裏側で、私たちは「常に誰かに見られている」というプレッシャーを感じていないでしょうか。自由に発信できるようになった反面、心無い言葉に傷ついたり、見えない敵と戦ったりすることもあります。<br>

あなたのタイムラインに流れてくる情報は、本当に公平なものでしょうか？<br>

「いいね」の数に一喜一憂し、現実の自分とSNS上の自分とのギャップに悩んではいないでしょうか。<br>

SNSは、私たちの生活を豊かにしたと同時に、以下のような新たな課題も生み出しました。<br><br>

・コミュニケーションの歪み: 誹謗中傷や炎上、匿名性による無責任な発言<br>

・情報の偏り: フェイクニュース、フィルターバブル、エコーチェンバー<br>

・精神的な影響: 承認欲求、SNS疲れ、依存症<br>

・プライバシーの問題: 個人情報の流出や悪用<br>

このサイトでは、SNSがもたらしたこれらの課題を一つひとつ掘り下げていきます。<br>

そして、ただ問題を指摘するだけでなく、SNSとどのように向き合い、より良い関係を築いていけばいいのかを、一緒に考えていきたいと思います。<br>

SNSの課題点を知るため、まずはSNSがどのように進化・変容していったかを知るべく、SNSの遍歴を見ていきます。<br>

→次ページ「系譜」

（参考文献）

ダナ・ボイド「つながりっぱなしの日常を生きる：ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの」

レイ・オルデンバーグ「サードプレイス：コミュニティの核になる「とびきり居心地のよい場所」」